

1 食肉卸売市場と連携した口蹄疫等家畜伝染病対策

山城家畜保健衛生所

○川島康成 松田誠一¹⁾

1) 現 山城南農業改良普及センター

【取組の背景】京都市中央卸売市場第二市場（以下、市場）はと畜場併設の食肉専門中央卸売市場として、全国から年間牛 14,000 頭、豚 20,000 頭が入荷される家畜防疫上非常に重要な施設である。過去の口蹄疫国内発生を教訓として、平時、国内及び市場内発生時の対応を想定した市場と連携した取組の必要があった。

【口蹄疫等伝染病対策委員会】市場内関係組織と家畜保健衛生所で構成する委員会を設置し、口蹄疫対策を軸とした事前の準備、平時からの衛生管理区域の確保、国内及び市場内発生を想定した各組織の役割と防疫対策を網羅した口蹄疫等伝染病対策要領を策定した。また、豚流行性下痢の国内流行等にも合わせて対応した。

【口蹄疫を想定した対応】市場関係者の防疫対策の習熟と防疫意識の向上を目的として、異常家畜が発見された初動時からの情報伝達及び指揮命令系統、まん延防止のための市場側の措置と防疫措置について演習を行った。演習を踏まえた意識調査では衛生管理区域確保の捉え方に明確な違いが認められ、これらを照合し、より高度な管理に繋げる取組が必要であり、今後も毎年の演習を通じて防疫対策の一層の強化を図りたい。

【今後の展開】牛肉の海外輸出に向けて、これから市場の施設整備が始まる。これまでに構築した体制と対策、今後も積重ねる対策の新施設への継承を進めたい。